

---

# バカと魔法とリリカルなのは

月森 和樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バカと魔法とリリカルなのは

### 【Nコード】

N6803Y

### 【作者名】

月森 和樹

### 【あらすじ】

ここ、私立聖祥大学付属文月中学校

それは科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした。振り分け試験の成績で厳しくクラス分けされるこの学園でテストの結果を受け取った男子中学生・衛宮恭二を待っていたのは、最低クラスであるFクラスの、学び舎とは思えない最低の教室だった。この状態を改善するには、試験の点数に応じた強さを持つ「召喚獣」を使用した戦争「試召戦争」で勝ち上がり、上位クラスの

設備を奪い取るしかない。恭二はFクラス代表の切裂凶夜（予定）を焚きつけ、Fクラスを試召戦争へと立ち上がらせる。学力と引き換えに多彩な技能を持った彼らは、学園最高の学力を誇るAクラスからの設備奪取を目指して動き出す。

魔法は関係ありません

## 設定は重要（前書き）

どうも、月森（笑）です。

今回も変な作品だと思いますが、よろしく願います

## 設定は重要

みんな「「「教えて!」」」

はやて：八神先生!!!

はやて：さあ始まりましたこのコーナーや!

狂夜：いやないな

はやて：なんでや!?

恭二：凶夜、俺が説明するよ。

たまたま駄作者が学校ではやて可愛いと言っやつがいたからやってみたと言っ出来心でやったんです。もの凄く反省しています。

はやて：何故なんや……

恭二：まあ、気を取り直して……Fクラスの放課後（仮）

和樹（駄）：説明しよう、Fクラスの放課後とはその回の用語や説明、新キャラ紹介、そして……ただダラダラ喋っているコーナーである。

凶夜：説明ご苦労、このコーナーの司会進行を担当する、Fクラス学級委員長の切裂・凶夜と

恭二：クラスの一応潤滑剤役だが、それは表の顔………Fクラスの  
異端審問会・通称FFF団の総統閣下、衛宮恭二またをカサエル・  
R・ブリタニアだ。  
よろしくな

凶夜：ヴォイ！ 俺よりもキャラ崩壊させんじゃねえ！！

恭二：凶夜よ、すまん。

このコーナーでは、衛宮恭二ではない。

俺は、カサエル・R・ブリタニアだあ！！

凶夜：そうか、ならいい。

というわけでだ、このコーナーにはゲストが毎回来るらしい。

恭二もといカサエル：そうだった、さあはいれ

なのは：あれ？ ここどこ！！

明久：ん？ どこだ！？ しかも何で高町さんと！ てか、凶夜に

恭二なにしているんだ？！

恭二：私は恭二ではない！！

Fクラスの異端審問会・通称FFF団の総統閣下、カサエル・R・  
ブリタニアだああ！！！！

なのは：なに言っているのかわからないよ！？

明久：まったくだよ！？ 凶夜も何か言ってくれ！

凶夜：諦めろ、どうせこの回が終わるまでこの調子だ。

そのせいが俺にもひびいているからな

恭二：まあいい（ - . . . ;

今回のチヨイスは、バカテスとリリなの主人公同時でできているからな。

また登場するからその時は……………フッフ

なのは・明久：（ - o - ; ）ゾワ…………

凶夜：カサエルそこまでにしておけよ。

カサエル：フン……………しかないな

なのは・明久：（もう固定されている！？）

凶夜：今回の議題は……………「それは私が説明しよう」 そうかならやれ

恭二：助手として当然…だ。 今回の議題は、キャラと召喚獣紹介だ ビシ！

凶夜：そうか、ならおれからだな

切裂・凶夜

こちらは、美夜と違って正々堂々と、正面切って行く正統派番長。ただし、自分の思い通りに行かないとブチ切れる。

慎重に物事を観察するクール系、ただ頭に血がのぼると、ヒヤッハ！…とか言い出して暴走する。通称クレイジートレイン、危険。どことなく似てる美夜が嫌い。

好きな食べ物 抹茶アイス（美夜と違って、意外とさっぱり目）

レトルトカレー（腹がふくれれば、それでよし）

マーボーカレー（ここで共通）

美夜がレトルトは邪道だ！と言い、凶夜が今の時代は地球温暖化対策の一環として、試験的にレトルトを試食している。とか何とか言つて、喧嘩する。

何でもそつなくこなすが、料理ベタでキッチンが爆発する。

音楽、人前ではオーケストラ等を聴くが、人がいなかった。へびメタなどを聴く

召喚獣

姿：テンカワ・アキト（映画版）

武器：ブラックサレナのハンドガン

腕輪：守り、瞬間移動

ディストーションフィールド 使用点数50点数

ボゾンジャンプ 使用点数50点

獅子牢鬼・美夜

世界が自分の中心で回っていると、思っているアッチ系の性格。自



分にとって楽しい事、面白い事、全てにお金や時間を惜しまない。  
例えば、ジグソーパズルとか、朝、学校早く来て黒板消しなどのト  
ラップを仕掛けるとか。

予定道理に上手く行かないと、プチ切れる。

趣味 味見 好きな食べ物に関わってくる。

好きな食べ物 好物は、以下の通りバニラアイス（ジロウ、と言  
うかパワードの好物）

激辛マーボー（シキに転生したクライド、声がアノ神父だったから）  
マーボーカレー（テイルズから）

味にうるさい、バニラ意外は全部邪道、氏ねと思っている。

マーボーもそう、辛く無いマーボーはマーボーじゃない！！

ただし、それ以外は美夜自身が作るとマトモ……と、言うか普通  
以上に美味しい5つ星クラス。みんなからナゼ、バニラとマーボー  
に執着しているか疑問視されている。

へビメタとかギンギンに効いた音楽も好き。変な歌も好き。 絶望  
ビリー、Bomb A Head!、ギャグ漫画日和のオープニング

8

## 召喚獣

姿：髪 黒髪、赤のメツシュ（黒がミキヤ&シキ、赤がジロウ）  
顔 めがね（シキ）

上半身 赤と白のツートンツリーシャツ（ジロウ）

下半身 青の学ラン（シキ）

さらに、長すぎのコートを羽織っている……真っ黒<sup>ミキヤ</sup>

武器：ナイフ×2

グラビティーブラスト 消費点数100点

ディストーションフィールド 消費点数50点

衛宮恭二

クラスの暴走を止める潤滑剤の役をはたしているが、実際はその中心にはつかっている。美夜と凶夜とは腐れ縁みたいなもので、美夜をバカ犬と命名したのも恭二である（凶夜は、イカレ猿）

好きなもの

ストロベリーサンデー（三度の飯より重要）

衛宮士郎の食事（食べられるなら地獄から這い上がりたりもする）

しそ巻き（作者の好物）

周りが色々な事が出来る人がいるために基本的に何でも出来る。

家事全般、機械いじり、暗殺まで……………

だが、試食などはしたくない。（特に姫路さんの）

美夜、凶夜と同じ風紀委員会に入っているが、自分の直属のFクラス  
の異端審問会・通称FFF団総統閣下の役所につき、異性に関する  
問題：明久、雄二などを取り締まっている

別に音楽にジャンルなどはないが、好きな歌手は、水樹奈々、jam  
project、Greenである

恭二：…というところだ。

まあ、美夜に関してはすでに使えないがな。

凶夜：本当だ、あのバカ犬の癖にな

明久：なんか、恭二の紹介に僕の名前があるのさ!?

恭二：それは貴様が悪いんだよ

なのは：何で私の紹介がないの!?

凶夜：そいつは、作者が言うには「今考えて見れば、リリなのって  
いうよりもバカテスに傾いているかも（笑）」ということが高町い、  
貴様等の出番はない!

なのは：作者さん……後でO H A N A S H Iなの

明久：……!! おかしいな、なぜか寒気がする。

凶夜：同感だ明久、なぜか夜道に気を付けろって、俺の第六感が  
つてやがる

恭二：どうしたお二人

凶夜：気にするんじゃないやねえ。そろそろこのコーナーも終了だな。

恭二：次回もゲストは高町なのはと吉井明久だ

凶夜・恭二：またね

## 設定は重要（後書き）

一発目からつまらないと思いますが、頑張ります。

ところで、シリーズのやり方がわかりません

恭二、死す！（前書き）

題名道理です。

恭二、死す！

衛宮恭二の朝は早い…理由がない。

p i p i p i … p i p i p i

「う…ん？」

目覚ましを見ると午前7:00、まだ時間が言った。

「さ…とと」

監視カメラの映像を見るか…

これは春休みまで遡る。 朝起きると

「ん？ 『白髪幼女と金髪女子』？ なんだ…こ…れ…？」

なんと！？ ベッドにR-18の本が置いていった。

それは、それは、毎日置いてあり、だいたいがセイバーさんや、遠坂姉さん、イリヤ姉さん、桜姉さんに似た人達のやつばかりで確実にあの赤いの（アーチャー）か、士郎兄さんしか考えられなかった。

毎日毎日、置かれるものだから、最近はかなり量の量になり困っていたが、父さんに頼み、ついに監視カメラを買うことに成功した。

しかし、あの赤いのだったら絶対バレるのだから、ムツツリー二から買い取った。

「さして、覚悟しろ!!」

そこには、ニヤニヤと笑ったアーチャーだった。

ドタドタドタ…

「アーチャー!!… てめえ!!…! ちよつと表に出ろや!!…!」

「おはようございます恭二、どうしたのですか?」

セイバーから

「おはよう恭二、どうしたの? 起きてすぐに叫ぶなんて!!」

お母さんカラ

「ふむ、どうしたのかね。サーヴァントにいきなり戦いを仕掛けるとは、気でも狂ったのかね?」

くっそ、ムカツクやつだ…だが、今回は勝たせてもらおう

「アーチャー、これはなんだ」

俺は、R・18の本を出した

「まさか、恭二!?!」

お母さんがすごく驚いてた。

「恭二!?! お姉ちゃんはそんな子に育てた覚えはないよ!?!」

「いやイリヤ姉さんに育てられた覚えはないし、これは違うよ!?!」

「「え!?!」」

「えって何でランサーさんと父さんが驚いているの」

ツんだ

「だってなー」

「だってね」

「「男の子だからだろ!?!」」

「ハモらせるなー!?!」

「「「恭二」」」

後ろを振り向きたくない、絶対死ぬ! と思ったら……

「恭二、お話が必要ですね」

フル装備のセイバーさん

「恭二は解っているのよね、私達が好きな人は」  
「なんか、大量の宝石（宝具級）を持つ凜姉さん

「お姉さん達からの O S H I O K I が必要かな」





「行ってきますー!!」

「行ってらっしゃーい」

新聞を読むお父さんと土郎兄さんに料理を教えてもらっている母さんが言った。

また死ぬのかな…

「今日はたまたま家族事情があつたんです」

「……………そうなの」

ゴス!

「……………!!! そ、そうだったのですよ」『ゴス!』……………」

「……………それで、どうしたの」

ゴス!

はっきり言おう、死にそうだ…

今まで『ゴス!』ゴス!』……………!!! とまあ…こんな音をしているのは皆さんは石抱きと聞いたことがあるか? それは、三角の木材の上に載せられてその上に石を載せると言う……………拷問だ。だが、それを強化状態にされていた。

まず、下に画鋏やガラスの破片などを置き、その上に座らせバインドなどで固定し、その上から石? を載せられるのだ。だが、俺ほ

どになれば逃げることは可能だが、周りにアクセルシューターなどが設置されているのだ。もちろん、俺はMではないし、そっちの道には進む気はない。

「……………『ゴス！　ゴス！　ゴス！』　で他に言うことはないか？」

「そ、それは『ゴス！　ゴス！　ゴス！　ゴス！　ゴス！』　ありません」

もう無理だ、足の感覚が完全になくなってきた。

「……O H A N A S H Iかな」

最後に逝っておこう。かなりの余談だが、石？はアリサが用意し、石を重ねるのはさすがである。

「全力全壊、　スターライト！」

「雷光一闪、　プラズマザンバー！」

「響け終焉の笛、ラグナロク！」

もう、どうにでもなれ

「……ブレイカー……」

そして、恭二は星になりかけだが、なんとかか再生し、学校へ向かった。

二回目

〔私立聖祥大学付属文月中学校 校門前〕

「やつ……とつい……た」

やったよ！！ 遂にやったよ、パトラ○シユ！

「よ！ 恭二、なんか色素が薄くなってるぜ」

「やあ…美夜……。そん…なことは…ない……」

そこには、小学校からの腐れ縁で愛称阿保犬こと獅子牢鬼・美夜だ。と

「おはよう阿保犬、恭二。」

恭二君は、何か薄くないか？」

「あつ、またいいやがったなイカレ猿！！」

「凶夜…か…大……丈夫…だよ」

「僕の目にはとても大丈夫そうにみえないが…」

この明らかに猫の皮を被っているのは、切裂・凶夜、腐れ縁のパートナー？。

なぜ阿保犬とイカレ猿かは、美夜と凶夜は犬猿の中に近いために俺が付けたのだ。

「大丈夫だ、大丈夫だ。」

今、死んだ婆ちゃんといじいさんが呼んでるし、天使が迎えにきているから」

「それ絶対大丈夫じゃないよね!!」

「恭二君戻ってきてなの!」デイバインバスター!

「ギヤアアアア!!」

またまたまくどいが、亡くなりましたが今回は…まずかった。

### 三回目

そのあと今の光景を見たもの全ての記憶を書き換えました( ^ O ^ )

「…で、気はないんだが、何で俺がFクラスなんだ?」

そう、校門前で鉄人ならぬ…???先生がクラス割りを配っていた。

そこには、Fクラスと書かれていた。

ちなみに他は…

なのは…A

フェイト…A

アリサ…A

すずか…A

はやて…A

凶夜…F

明久…F

雄二…F

ムツツリー二…F

秀吉…F

姫路…A

美波…C

であつた。

美夜は書いてないかって、それはFに決まっているじゃないか（笑）

「恭二と一緒にじゃない…」orz

「なんなに一生懸命勉強したのに…」orz

「…何でや」orz

皆様撃沈のご様子。

「俺はテストを受けてないからともかく、何で凶夜もFクラスなん

だ

「ああ、それはなあ、学園長に言ったからな」

「そうか…」

「そこ納得する所じゃないよね!？」

「「明久いたのか」」

「今きたばかりだよ!」

そこには、明久、雄二、秀吉、土屋のいつものメンバーがきた。

「雄二君、明久君、秀吉君、土屋君、おはよう」

「「今日の凶夜は気持ち悪い!」」

だよ〜 流石に優等生气取りだし

「てめえら死にたいか」

いつもどおりに戻った。

恭二「おい、みんな早くしないとSHRが始めるぜ」

なんかどんどん影が…

とりあえず、下駄箱についたが…

「……………」ゴックン！

「どうしたのじゃ恭二、ああいつもの奴か」

「どうしたんだ、ああいつもの奴か」

「…………裏切ったら殺る」

「どうしだの、さっさと開けなよ」ガチャ 俺の下駄箱を開ける

「ちょ、ばか！…」

ドサー

おっ終わった〜( ^o^ )ノ

ジャキ

何でだろう…：すごく不公平な気がする。

「結果」

結果がはられてしまった…

「デイベインバスター！」

「サンダースマツシャー！」

「彼方より来たれ、やどりぎの枝。銀月の槍となりて、撃ち貫け。石化の槍、ミストルティン！」



今回も直撃、これで生き返る俺すごい！？

## 五回目

なんでかな、俺がもらいせいなのかわからんが…  
なのは達が非殺傷にしているのは確かなのに…

こうして、教室についた。

恭二、死す！（後書き）

凶夜・カサエル：Fクラスの放課後！！

ピューパフパフ！

凶夜：ちっ、しけてやがる

カサエル：まあそう言っな。　まだこのコーナーが始まって二回目だからだろう

凶夜：ああ、いらいらするぜ。

まあいいが、今回のゲストを呼べ！

カサエル：かなりキレてやがるな。　さあ今日のゲストは、高町なのはと吉井明久だ！

明久：また！？

なのは：高町なのはです。

カサエル：（。°。°。）ガクガクブルブル  
さ…さて、今回は……………ぐだぐだだ。

なのは：スタスタ…

明久：あれ、高町さん？　どこ行くの？

なのは：少し作者とO H A N A S H I Iするのしてくるの…

スタスタ…

凶夜：逝っちまったぞ（作者が）　今回はこれ…  
まだ続けて　カンペ

カサエル：残念だったな凶夜。なんとか、バカ（明久）で続けるしかないな。

明久：ゲストにバカつてなにさ！？　僕はこんなに…

カサエル・凶夜：バカだろ

明久：違ーう！

凶夜：諦める。

所でカサエル、今日はお前は非番だったはずだが

カサエル：凶夜は今日見ただろ。あれのせいで、恭二の色素や影などがなくなっていたから、代わってやった。

凶夜：そうか…：…なら明久、お前が次回予告をやれ。

明久：なんでさ！？　まだ何もしていないじゃないか！

カサエル・凶夜：面倒くせい

明久：いいのかなこのコーナー…：…orz

カサエル：まあいい、俺がしよう。

明久：やめてえー！　僕がいる意味なくなるからやめてえー！

次回予告ね…まだ始まった学校生活だが、Fクラス学級副委員長の雄二が……次回！ バカと魔法とリリカルなのは 『これっていいのか！？ Fクラスの友情』

カサエル：遂に、俺の出番D A a a a a a a a a ! !  
凶夜：そ……そうか

明久・カサエル・凶夜：次回もお楽しみに！

なのは：O H A N A S H I

和樹（駄）：ギヤアアアアア！！！！

こねっていいのか！？ Fクラスの友情（前書き）

素晴らしくアホなことした

こねっていいのか!? Fクラスの友情

「衛宮恭二だ、趣味は、機械いじり、それにトレーニングだよしく」

みなさんすいません! m ( ) ( ) m

いつもど通りのいきなりですが、自己紹介が終わりました

いや、作者が、『自己紹介? そんなもん適当に飛ばしとけ! 所詮今までやってきたんだし、駄作も超越したからみんな気にしないよ』とか言っていました。

別に罵倒してもいいです。うちの作者、精神的にも肉体的にも紙よりも薄いですからイチコロデス。

「今回、副学級委員長になった坂本雄二だ」

凶夜「てめえ! 離せよ、離せごらあ!!」

いかにも俺が委員長だみたいにいる雄二が気に入らないらしく、暴れようとする凶夜

恭二「いけ、明久! 美夜!」

明久「え? なんで」

美夜「なんでさ!?!」

俺はポケ○ンの如く明久と美夜を戦闘(生贄)に出す。

凶夜は既に再狂だ

凶夜「ヒヤヒヤハハハ!!!!」

恭二「逝ってこい」

美夜・明久「嫌だああ!!」

明久達は星になった。

雄二「恭二、ナイスだ!」

恭二「だろ!」

雄二「まあいいさ。みんな、このクラスは満足か」

Fクラス「問題大ありだ!!」

クラスみんな思うのだが、Fクラスは教室などではない。  
物置以下だ。

周りにはキノコやカビ、それに………<sup>ゴミ</sup>も落ちていた。  
こんな所で、色々は難しいであろうが、仕方ないまだ、机が置いてある（使えるか使えないかの狭間）あるだけましだろう。

雄二「みんなそう言うだろうと思ったから、俺たちFクラスは、A  
クラスに宣戦布告をする!!」

Fクラス「な…なんだって!?!」

恭二「雄二正気か!? それじゃ振り返り討ちにあつのは目に見えてい  
るぞ!」

そう、AクラスとFクラスには天地の差がある。

Aクラスは、総合点数1000点数越えが何人かにあの魔王、「魔王じゃないもん」死神、「死神……………」そして、あの！  
狸「違うわ！！」がいる。

そんなのにはあり得ないほどだ。

対してFクラスクラスは、バカ95で、Aクラスに対抗出来るのは、俺（Bクラス並み）、凶夜（Aクラス）、雄二ぐらいだろ。

雄二「普通だったら、負けるだろうが、こっちには凶夜がいる」

FクラスA「確かに神童と呼ばれていた！」

説明ご苦労、確かに凶夜、俺、雄二は、聖洋小では神童と呼ばれていたが、過去の話だ。

雄二「それにムツツリー二にもいる」

ムツツリー二、本名土屋康太。

言ってることと違ってることが違う奴だが、情報収集能力はかなり高い

ムツツリー二「……………！！」「ブンブン

そんなことはないというばかりに否定するムツツリー二。

恭二「ムツツリー二、無理だぞ。

体育をしている女子生徒の写真を撮っている時点な」

ムツツリー二「……………違う」ブンブン



と、いいつつも体育をしている女子生徒を撮影してる時点でアウトだから

「Fクラス」「まさにはムツツリーニ（寡黙なる性識者）！！」「」

雄二「それに吉井明久に、獅子牢鬼・美夜もいる」

明久・美夜「どうして僕（俺っち）の名前が出てくるの（さ）！？」

バカD A K A R Aです。

こいつ等は、クラス訳のテストで、5教科総合点数200点と言っ  
すげー点数をとっていた。

Fクラス「誰!?」「」

テンションが一気に下がった

雄二「それはだな……………」

凶夜「雄二、代わり殺がれ。  
さもないとな…」「ゴゴゴ…」

今頃復帰した学級委員長さん。だが、気づけば美夜と明久が復活していた。

雄二「わかった」

あっさりとひくのか

凶夜「奴らは観察処分者だ。簡単に言うとキング・オブ・バカだがな」

明久「凶夜君ヒドいよ!!」

美夜「このイカレ猿ううう!!」

唸りをあげる美夜、犬かお前は

凶夜「だが、本当ことだ」

美夜・明久「うっ!!……………」

凶星だからね」

恭二「補足するが、その分誰よりも召喚獣の扱いがうまくなるがな」

そう、観察処分者のメリットは、物質をもてること。

普通の召喚獣は、ただストレスの発散に造られたものだが、学校側から認められると物質に触れられ、雑用係にされる(またはパシリ)

恭二「凶夜、頼みがあるんだが」

凶夜「なんだ、変なのは聞かんぞ」

恭二「すまないが最初にEクラスとしないか？」

雄二「どうしてだ？ 別に、Dクラスからやろうとしたんだが」

恭二「すまないが、EクラスとDクラスの時に点数を補充したいんだ」

恭二「総合点数0点」

それは入院していてテストを受けられなかったからだ

雄二「それもそうだな。このクラスのトップスリーにはいるからな」

凶夜「なら、それなのにの点数を取れよ」

恭二「任せろよ」

そんなに時間があつたら、全教科500点越え楽勝です。

凶夜「それなら、誰が宣戦布告に逝くのか……………おい、バカ（明久）、あほ犬（美夜）、てめえらで逝ってこい！」

明久・美夜「なん……………」

凶夜「すう……………」

逝ってこいやアアアアアアアアアアアア……………！！！！

……………

凶夜が叫ぶとすげえ静寂に変わり、全てのものが静止したんじやないかってくらい何も聞こえなくなった……………心臓の鼓動、呼吸さえ……………

凶夜「逝ってくるよな」

美夜・明久「……………」「ブンブン！」

恐れをなしたのか、美夜と明久が全力で首を縦に振るとダッシュで  
宣戦布告しに逝った

Fクラス全員がこの時敬礼したのは……………まあ、気にしない

……………十分後……………

明久と美夜が教室を目指していた。全身には、打撲、すり傷、あ  
ざなどが残っていた。

美夜「……………おい、明久」

明久「……………」「どうしたの美夜」

二人はしゃべる気にもならないぐらいにEクラスにボコボコされた。

美夜「これってさ、絶対にあと、四回はこんな目にあうんだよな」

明久「雄二や凶夜、恭二だからね、確実にこうなるだろうね」

美夜「理不尽じゃねーか！　これは」

明久「そうだよ！　これは明らかに奴隷扱いだ！！」

美夜「なら

勉強して、奴ら脅かそうぜ」

明久「美夜も面白いことを思いつくね。

いいよ、その案に乗る！！」

美夜「俺たちは！！」

明久「こんな理不尽な！！」

美夜「扱いを避けるために！！」

明久「勉強する事を計画する！！」

美夜・明久「「打等、この扱い！！」」

そして、打倒を打等と間違えている二人

『オオオオオオ……！！！！』

突然、Fクラス教室の教室から歓声の音が

美夜「な、なんだあゝ！」

明久「美夜！ 早く行こう！ 僕には不吉な予感しかないよ！」

美夜「全くだ。 行くぞ！ 明久！！」

二人は勇者が、町から煙がたっているのを見つけ走り行くように、  
Fクラスの教室のドアを開けた

明久・美夜「こ、これは！！！！」

そこで目の当たりにしたのは…

『All Hail Britannia！！！！』

『All Hail Britannia！！！！』

『All Hail Britannia！！！！』

雄二、凶夜以外の生徒が、紅いコート、中には黒い服を着た恭二に  
忠誠心を誓った生徒たちだった

それは、明久たちが行ったあとの話である

~~~~~回想~~~~~

恭二「凶夜、ちょっといいか？」

恭二が真剣な顔で言った

凶夜「どうした。まあ、お前のごとだ、さっさと終わらせるよ」

恭二「ありがとう」

流石は腐れ縁、二人の中は最高だった。

恭二「みんな聞いてくれ！！」

リア充を野放しにしてて問題あるか？」

『問題大有りだ！！！！』

本来は、実際の現実の生活（リアル生活）が充実している人間のこと。

恋人や友人付き合いに恵まれる

サークル活動や飲み会へ参加する

オタク以外の趣味を楽しむ

2ちゃんねるの大学生生活板やVIP板のような、ネット上でヒマを  
持て余す人たちのたまり場で広まり、認識された概念が由来。

であります、この世界では、彼氏彼女がいる人をさす」

ちなみにこのクラス100%非リア充

恭二「そうであるぞ。」

「この世界は全ての物は平等と言っていたくそバケるオヤジイエス・キリストは言っていた!!! だが! それは真のことなのだろうか!」

恭二「いや!! 断じて否!!! その証拠に、この世界はどうだ? どんなに世界の子供たちのために募金しようと届かないこともあり、そこいら辺にゴミを捨てて他の人が拾ったりする! いや、人間だけではない!! 生きるといふ言い訳をして、牛や豚、鳥などを飼い! そして殺し! それを知らないで食べる!!! これが、キリストが言った世界なのか!？」

田村「いわれてみればそうだな」

長嶋「俺たちはそんなことを」

恭二の話に共感していく者も現れたが、話はヒートアップしていく。

恭二「それだけではない!!! この学校の風紀委員は、異性交遊を取り締まらない!!!」

「「「「.....!!!!!!」」」」

恭二「そうだ!! なら、誰が裁く!?! 神? 法律? 校長?

いや、断じて否! そう、俺達だ!!!

俺達が裁かなきゃならん!!! どうかでは、聖書(R・18の本)やこれらのことを規制する者がいる。

いや、それは違う!!! それはリア充の馬鹿者が考えることだ!」



須川「……閣下」

須川君が言つと

「閣下」「閣下」「恭二閣下」

みんなに伝染した。

「「恭二閣下万歳！ 恭二閣下万歳！」」

恭二「いや、違う！！ 俺たちはFクラスの異端審問会！！！！  
そして俺は、Fクラスの異端審問会総統閣下 カサエル・R・ブリ  
タニアだ！！！」

この日、魔人？ が誕生した

これっていいのか!? Fクラスの友情(後書き)

カサエル・凶夜：Fクラスの放課後!!!

カサエル：今回も始まったな。

私の初登場回が、私は、Fクラスの異端審問会・通称FFF団総統閣下 カサエル・R・ブリタニアだ

凶夜：勝手に俺よりも言うんじゃね。死にてえのか？

俺は、Fクラス学級委員長の切裂・凶夜だ、よろしくな。所で今回は誰だ！

カサエル：今回は、美夜と雄二だ

さあ、はいれ

美夜：ん？ なんだあ、ここは。

うおっ!!! イカレ猿

雄二：ここはどこなのかを教えて欲しいのだが

凶夜：ち！ さっさと終わらせるぞ!!

ここは、まあ平たく言えば愚痴るコーナーだ。

雄二：簡単だったな

カサエル：ふん！ と言う訳だが、今回は、予告も含めて殺るらしい。

美夜：な…

凶夜：さっさとやれ

美夜：おい！ イカレ猿てめえ！！ ちょっと表にでろや！！！！

凶夜：ああいいだろう、返り討ちにしてやる

雄二：おい！ 行っちゃった

カサエル：よくあることだ。

まあ、予告でもするか

遂にしびれを切らした作者が *striker s* を書く！

魔法少女リリカルなのは *striker s* 神と悪魔の力を持つ男

と言った感じらしい

雄二：そうゆうことは、遂にか…… そんな感じはしないな

カサエル：全くだ。 どうせすぐめげる。

今回も勉強を捨ててやってるからな

雄二：これは明久よりもバカかもしれないな

そろそろ帰るわ

カサエル：そうか、ではまたな。

このコーナーも終わり

では待ったね

オエ -



暁に散るとはいついつことが…

我がFFF団が結成してからやや1日…短かったと言ってもいいだろう。今、聖洋文月中での異性断罪行為が急速に増加した。これも凶夜が占拠もとい忠実な所をだしたため風紀委員長になったことがかなり大きい…今、厳しい難題がきた

「学校での異性との交遊を正当化しろー！」

「…そうだ！ そうだ ……」

ちっ、リア充め…

それはDクラス攻略後、どう考えてもリア充にはならない奴がいきなり今の事を言いやがったからだ。

格好は、びっちりとした制服、渦巻き眼鏡、きっちりと半分で分かれている髪、これがモテるっていうか…まだ、山田君の方がいいぞ絶対。

ちなみに山田君は、オールバックに背が小さい出っ歯だ。

「閣下、報告いたします！」

今立てこもっている場所に聖女なのは様、聖女瑞希様がおられるのが確認されました！！二人とも今回の馬鹿共（リア充）とは無関係だと思受けられます！！」

「な、なんだって ……！？」

「閣下、これは急がなければ！！」

なぜ、なのはが聖女と呼ばれているかは、簡単だ。

我が聖洋文月中に聖女と呼ばれる高嶺の花が存在する。

なのは、フェイト、はやて、アリサ、すずか、姫路、そして……  
秀吉だ。

正直、秀吉がなぜかその中に入っているのが疑問に思う。

「とりあえず、落ち着け」

「何故ですか！？　すぐん……黙れと言っただろうがアアアア！！

！）（。。。？・グハッ！！」

うるさい奴には、ローリングクラッシュャークロスボンバーの刑をかました。

「きさま……誰がしゃべっていいと言った」

「す……すみません」

意識が朦朧としてやがる！　ちっ、仕留め損ねたかったか！？

「まあいい、ムツツリーニ、状況は」

「……………以前沈黙としている」

そう言うとムツツリーニは俺に地図と現場の状況写真を渡す。

「これはきついな……」

Cクラスに立てこもっており、しかもなのははその中心にいるから

だ。

だが、作戦はないわけではない。

「ムツツリー二、あそこのガラスはどんぐらいする？」

「…………一枚20000円」

「無駄に高いな」

うちのクラスでも一枚100円なのに

「仕方ない。 須川、横島、梅」

「……はっ！！！！」

我が精鋭副部隊隊長の三人を呼ぶ。

「貴様等にあのリア充くすの引きつけ役をしてもらう。

明久、ムツツリー二」

「……………」シュバ！

「どうしたんだいカサエル！」

明久、今回はいつもよりキリッ！ としていやがったからイラつく。

「お前たちには姫路さんと高町を救出、すぐに撤退しろ。  
そして明久、死ね！」

「なんでー！！」



「当たり前だろ」

「秀吉い、恭二がいじめる」

明久が秀吉に泣きつく。 あれ？ おかしいな。 秀吉が女神に見えるぞ！

ピキピキ！

「気のせいか、なぜか皆にひびが張った気がするのじゃが」

「気のせいじゃないのか」

「.....」

周りでは、明久に対する殺気が高まっていく。

「とりあえずだ.....聖女救出作戦を実行する！！ 皆野者！ 配置につけえー！！！」

『Yes, Your Majesty.』

そして我々は作戦を実行した。

今、我々は悪の結社と戦っている。

何が異端審問会だ！ ただの嫉妬じゃないか！！ 僕は、僕は、奴らを許さない！ 奴らのせいで僕とはやてちゃんが…  
だから奴らを僕は許さない

「西紀くん、奴らがきたよ！！！」

よくしなめるなよ。 Fクラスごとの分際で、Cクラス〜Aクラスの実力を舐めるなよ。

side out

カサエル side

ちっ、めんどくさいことになった。俺達の人数は40人、相手は倍の80人だ。正直勝てる気がしない戦いだ。

Fクラス 高村 理科 50点

VS

Bクラス 生徒A 140点

Cクラス 生徒A 80点

と言ったような戦いで、ついには20人で、相手は70人。  
こうなったら仕方ない。  
切り札を切る<sup>ジョーカー</sup>!!!

「みんなこれを見る」 ムツツリーニから買った。なのは達の写真

「これが欲しいかあああ!!!」

「『『『オオオオオオオオオオ!!!』』』」

Fクラスが雄叫びを上げる。

なんせ、3万円の写真だから、欲しい人がたくさんいる。

「なら!!! これが欲しかったら勝利を俺に献上しろ!!!  
もし、一番狩りをしたら、プレミアムを渡そう!!!」

「『『オオオオオオオオオオ!!!』』』」

みんなのテンションがMAXを超える。

「なら、俺が命ずる。俺に勝利を献上しろ!!!」

『Yes, Your Majesty.』

そして、Fクラス最強の作戦を決行する。

作戦命: 俺の屍を越えていけえええ!!!

内容は、ただの特攻である。

「Fクラス、全員で仕掛けるぞ」

「オオオオオオオオオオオオ!!!」

Bクラス 生徒 180点

VS

Fクラス FFF団A 40点×10人

そして補習を気にせず、特攻をする。

Bクラス 生徒 0点

VS

Fクラス FFF団 0点×3人

「戦死者は補習!!!」

「嫌だ!!!」

鉄人が出てきたがそこまで出ない。

「こいつらいきなり自爆しやがった」

「補習が怖くないのか!?!」

すまん。 もうこいつらは、勝利にこだわるんだよ。 主に俺の  
せい

「「オオオオオオオオオオオオ！！！！」」

もちろん、完全に勝利に傾いたな。

「さあ、そろそろかな」

ピピピピ…ピピピ

ポケットに入っている無線がなった。

「こちら明久、ターゲットを確保した」

「よくやった明久、ムツツリーニ。 帰還しろ」

「Yes, Your Majesty」

ピ！

「よく聞け！ 今、勇者明久とムツツリーニが救出に成功した！！

奴らに遅れをとるなよ！！！！」

『オオオオオオオオオオ！！！！』

そして、この戦争は俺達の勝利に終わった。

もちろん、リア充男は全員、アイアンメディスンの刑にした。

それ以降、リア充は反抗を弱めたと思っただが……

「斎藤くん、ア〜ん」

「ア〜ん うん！ すごくおいしいよ」

ソウダネ、スゴクオイシイヤツヲミツケタ

「「「異端審問会を始める！！！！」」」

「ひっ！」

さあ、お前の罪を数えろ！

### 【昼休み 屋上】

さあ、やってきた！ この時を！！！！昼飯DA！

「さあ、恭二くん 一緒に食べよう」

ああ、地獄の始まりだ……………（）（）（）；。○（）（）（）アワワワワ

「雄二、一緒に食べ」「悪いな恭二、無理だ」 くそ！ この裏切り者！！！！」

「おあいにく様、命が大切なんでね」

「雄二なんて、浮気疑惑をたてられて死んじゃえばいいんだ！！！！」

意気地なし

「てめえ、なんてことを!？」 「浮気は許さない!！」 ちよ!？  
まで、翔子。それはじよ… 「オシオキが必要」 や、やめ 「ビリ  
ビル! ! !」 ピシュー!

スタンガンを当てられると雄二は、翔子さんに連れて行かれた。

「ふん、ザマア」

「恭二もいこうか」

「え? 落ち着け。 . | . ; 話せばわ、わ、わかる」  
や、ヤバい。 最近、ブラッドの気持ちかわかる気がする。

「さあ、いくで」

「いや〜! ! ! ! た、助けてエエエ! ! ! ! !」

凶夜 side

たく、うるさい奴が消えやがった。 そしてなぜか明久が不思議な  
顔をしてこつちを見てやがる。 殺してやろうか?

「なんだ明久、俺になんか文句あつか？」

「いやいや、そんなことはないよ。　ただどさ、最近いつものメン  
バーで食べてない気がして」

ああ、雄二と恭二か

「仕方ないじゃろ。　恭二はあれはあれで忙しいのじゃから」

「……………雄二もガソリンを巻かれて行かれるからな」

「確かにな。　次は何だ」

「確か、理科「ちげえ、英語だ」　わかってるなら聞かなくてもい  
いじゃないか」

たまたまいじりたくなるんだよ。

だが、もう5月か……………そろそろ第一次体育祭の時期だな。　そろそ  
ろ種目の選手決めしないとな

ああ、めんどくせー　だが

「楽しいからな。　ここは」

そして桜は散り、緑あふれる時期になる。



暁に散るとはいついつことか…（後書き）

凶夜・カサエル：放課後Fクラス！！！！

ワァー！ パチパチ、ピューピュー

凶夜：今回も始まりやがったな。このくずコーナー

カサエル：所詮作者だ。今回はまさかのゲストだ。さあ、はいれ

美夜：よお、イカレ猿

凶夜：なに、クソ犬か。

カサエル：なに、もう一人いるのだが……

恭二：よ！

カサエル・美夜・凶夜：……………  
EEEEEEEE（。。）E  
EEEEEE

恭二：うお！？ なんだいきなり……

美夜：おい！ これはおかしいぞ！！！！

カサエル：我が<sup>おれ</sup>……………二人……………

凶夜：なんだ！？ なんだ！？ これは何の茶番だ！！！？  
ドッペルゲンガーか！？ いや違うな。だったら何なんだ。

恭二：驚き過ぎだ。(。。(ゴルア!!  
とりあえず、何でもこうなったかは、次からこのメンバーで固定にな  
ったから。

観客：エエエエエエ。(。。(エエエエエエ

凶夜：薄々きずいていたが、当たり前だな。

カサエル：これでいちいちいう必要性がなくなったな。

恭二：そうなのか？

美夜：もっと楽しもうぜ

カサエル：次回予告するか。「無視!？」

次回 《剣製対正義対護り手》

恭二：ついにアクトが登場!!

美夜：ここでもこの扱いか

凶夜：犬ごときが調子に乗るな。

みんな：次回も見てくれないと、暴れるぞ!!!

和樹(駄)：それは、まずいんだけど…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6803y/>

---

バカと魔法とリリカルなのは

2011年12月10日00時57分発行